

## 前書き

---

2006年に出版された「治療を検査する」の初版は、「どのように患者のニーズを最も満たす医学介入に関する研究を実施できるのか？」という疑問からインスピレーションを得て生まれました。医師・元研究者・ジャーナリストの Imogen Evans 氏、患者であり非医療従事者の立場から第三者として研究と医療の品質向上の支援活動を行っている Hazel Thornton 氏、および医療サービスの研究者の Iain Chalmers 氏はそれぞれの経験から、これまでの研究が、この重要な問題に答えていないという考えを共有していました。さらに、私たちは、新旧両方の多くの治療が適正なエビデンスに基づいていないことを強く認識していました。そこで、患者と医療専門家の対話を促すことで、肝心の治療効果を一般の目で検証することを推進する本を書くことにしました。

私たちは、「治療を検査する」を当初の British Library 出版からの本および、オンライン ([www.jameslindlibrary](http://www.jameslindlibrary)) で一般に無償公開した際に受けた反響の大きさに勇気づけられました。本書は一般市民からも、医療従事者からも称賛を得ました。初版は、多くの国で副教材として使われており、いくつかの言語の翻訳版も [www.testingtreatments.org](http://www.testingtreatments.org) から無料でダウンロードできます。

当初から、私たちは「治療を検査する」を常に進行中の取り組みとして考えました。新しい治療、昔からある治療にかかわらず、治療法の効果にはほとんど常に不確実性が伴うため、すべての治療の適切性について継続的な検証が必要です。これを行うには、科学的エビデンスを検討し、またその後再検討することが不可欠です。新しい研究に着手する前に既存のエビデンスを批判的かつ系統的にレビューし、同様に最新の系統的なレビューに照らして新しい結果を解釈するのです。

「治療を検査する」の第2版に着手するにあたり、著者は日常の臨床への質の高い研究エビデンスの導入に注力している医師で研究者の Paul Glasziou 氏を加えて4人になりました。2010年に新しい出版社 Pinter&Martin より初版が復刻されました。また新しいテキストは、以前と同じように [www.testingtreatments.org](http://www.testingtreatments.org) から無料で入手できます。

私たちの基本的な前提は変わりませんが、初版のテキストを大幅に改訂し、更新しています。例えば、スクリーニングの有益性と有害性の部分を拡大し、「早ければ良いとは限らない」と題した別途の章（第4章）で記述しています。そして、「臨床試験への規制はどこまで必要か」（9章）では、研究が患者の不利益を警戒し過ぎる状況について述べています。最後から2番目の章（12章）では、「何がより良い医療をつくるのか」を考え、科学的エビデンスがすべての人に本当の違いを生み出す道を示唆します。そして、より良い未来と行動計画（13章）のための青写真で締めくくります。

本書では、どうしたら治療を公正に検証することができるのか、そして、いかに誰もが参加できる仕組みを整えるのかについて、広く理解する方法を提起したいと考えています。

これは、個々の治療効果に対する「最良の治療ガイド」ではありません。むしろ、研究が公正、適切に行われ、有益な治療法を有害な治療法から識別することができ、患者、一般市民および医療従事者にとって重要な疑問に応えられるようにする上で、根本的な課題に焦点をあてています。

Imogen Evans, Hazel Thornton,

Iain Chalmers, Paul Glasziou

2011年8月